

穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備についての提言書

平成 23 年 4 月

穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会

## はじめに

穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会は、公共的団体の代表者や識見を有する者等からなる12人で構成され、市長からの委嘱を受け平成22年12月24日に発足しました。

委員会では、「安曇野市宿泊施設等のあり方検討専門委員会議」による安曇野市しゃくなげ荘（以下、しゃくなげ荘）の今後のあり方についての答申、安曇野市総合計画及び穂高地域審議会の提言・まとめ等を踏まえ、老朽化が顕著なしゃくなげ荘及び隣接する穂高ヘルスハウス（以下、温泉健康館）について検討しました。検討を重ねる中で、しゃくなげ荘に対する地域住民の期待を再確認し、穂高温泉郷の基幹施設となるしゃくなげ荘に代わる施設の必要性について検討しました。

また、しゃくなげ荘周辺には広範囲に亘り多くの観光資源があります。近年の観光は名所や旧跡などの周遊型から、地域の自然や歴史、文化を訪ねることや、その地域での体験活動などを好むスタイルへと変化してきています。穂高温泉郷には、観光客の多様なニーズに対応することができる観光資源や地域の環境があることから、当該地域及び市の観光振興を図る上で重要な観光の拠点となるしゃくなげ荘周辺の整備について検討し、次の2点について提言します。

提言1：天然温泉を活用した入浴施設の設置

提言2：安曇野市の観光の拠点とするためのしゃくなげ荘周辺の整備

限られた時間の中で、十分な協議を行えなかった感も拭えませんが、構成委員が様々な立場から精一杯の協議を尽くしたことをご理解いただき、安曇野穂高温泉郷が安曇野市の観光振興を図るうえで、一大拠点となることを目指し、実現化されることを願うものです。

平成23年4月18日

穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会

委員長 宇留賀 元亮

## 基本的な考え方

### (1) 観光の現状

平成 18 年 12 月に観光立国推進基本法が成立し、平成 19 年 6 月には観光立国推進基本計画が閣議決定され、平成 20 年 10 月に「観光庁」が発足しました。今や、国を挙げて観光立国の実現に向けた施策が総合的かつ計画的に進められているところです。

日本各地で様々な観光振興施策が取り込まれる中、日本ブランド総合研究所がまとめた「地域ブランド調査 2010」によると、安曇野市は、全国約 1,000 自治体の中から「魅力的な街」の 55 位にランクされ、安曇野の知名度は全国的にも高い位置づけにあります。しかし、この位置づけが来訪者数に結びついていないのが現状です。

長野県観光地利用者統計調査において、主要観光地別延利用者数は、碌山美術館・わさび畑周辺が 13 位、穂高温泉郷も 17 位と県内において人気が高い観光地ではありますが、市内での宿泊者は約 20%にとどまり、市の観光の現状は通過型であるといえます。加えて、リピーター率も低いことが現状です。

このような状況の中、近年における観光の現状は、名所や旧跡を訪れるのではなく、目的型による観光であり、「      をしたい」ということができる場所を訪れる体験型観光が主流となってきました。観光することが目的の観光から、「楽しい気持ちになりたい」「癒されたい」「ゆったりした時間を過ごしたい」などの感情が観光を動かす時代です。

### (2) 穂高温泉郷における「しゃくなげ荘」の位置づけ

穂高温泉郷は中房溪谷の有明厚生温泉源泉から約 16 kmの距離を引湯し、南北約 5 kmに渡り市内の宿泊施設の約 60%にあたる 40 軒を超える旅館やホテル、ペンション等が自然林の中に点在し、コテージを含め約 3,200 人の収容が可能な環境省が指定した「国民保養温泉地」です。

昭和 48 年に旧穂高町が設置したしゃくなげ荘は、穂高温泉郷の牽引役として長年にわたりその役割を担い、周辺地域も発展してきました。

施設の老朽化は著しいものの、しゃくなげ荘のネームバリューは高く、周辺の施設及び地域住民の熱い思いが注がれたシンボリックな位置づけにあります。

### ( 3 ) 天然温泉の恩恵を享受するために

穂高温泉郷に引湯されている天然温泉は良質なアルカリ性単純温泉で、先人たちにより守られてきた市の貴重な資源であるとともに、観光振興及び地域の活性化を図る上で貴重な財産であるといえます。

施設の老朽化は著しく、多様化する利用者ニーズに対応できないことから宿泊客は減少傾向にあります。日帰り温泉施設である温泉健康館が隣接しているにも係らず、日帰り入浴は多くの市民等に親しまれ利用率が高いことは、良質な天然温泉の魅力にあるものといえます。この貴重な天然温泉の恩恵を将来にわたり享受できることは安曇野市民にとって欠かすことのできない大切な要素です。

## 提 言

---

### 提言 1 : 天然温泉を活用した施設の設置について

#### 【 提 言 】

市の貴重な財産である天然温泉を最大限活用した穂高温泉郷の基幹施設として、市民が交流し、元気になることができる施設の設置が望ましい。

しゃくなげ荘及び温泉健康館の指定管理期間が平成 25 年度末であることから、早急に次のステップとなる土地の利用を含めた施設整備のための検討委員会等の設置が望まれる。その際には、民間活力を利用した施設整備も検討し、宿泊機能の検討も併せ行われたい。

しゃくなげ荘の今後のあり方についての答申を踏まえ検討した中で、しゃくなげ荘が穂高温泉郷において長年担ってきた役割は重要であるとともに、ブランド価値もあります。しゃくなげ荘に寄せる地域住民の思いは熱いものがあり、それは、天然温泉の魅力でもあることから、市民が天然温泉を享受することは当然のことであり、天然温泉の活用は必須の要素であります。

しゃくなげ荘及び温泉健康館は老朽化の上に、重複したサービス提供をしており、両施設を統合した温泉施設の設置を望むものであります。

安曇野市は、本庁舎等の建設、土地利用制度、総合計画に掲げる事業等重要な課題が山積していますが、このような時だからこそ、市民に夢と希望を与え、市民が交流し元気になれる施設の設置について提言します。

施設の設置は、地域住民との交流を求めて来訪する観光客にとって、地域住民と共有できる施設を設置することは観光の視点からも大変重要です。

なお、しゃくなげ荘周辺用地は広大であることから、民間活力による医療施設や多少の宿泊機能を有する施設等の設置も考えられることから、周辺民間事業者の位置付けなど、市全体の観光ビジョンを描いた上で具体的な検討を強く望むものです。

## 提言2：安曇野市の観光の拠点とするための

### しゃくなげ荘周辺の整備について

#### 【提言】

しゃくなげ荘周辺を安曇野市の観光の拠点とするために、ピフ穂高を道の駅として位置付け、天蚕センターの移設も視野に、広域観光の魅力を創出する将来を見据えた安曇野市の観光ビジョンの早期策定を望みます。

安曇野ブランドを具現化し、価値観を高めていくためには、しゃくなげ荘周辺の施設整備とともに、「地域の力」が結集する様なソフト面での整備を併せて行うことが必要です。

安曇野は、観光情報発信の面ではすでにブランド化されています。今、安曇野は豊かな素材や人、環境を大事にしている姿に自信を持つとともに、その素材の有意義な活用が求められています。

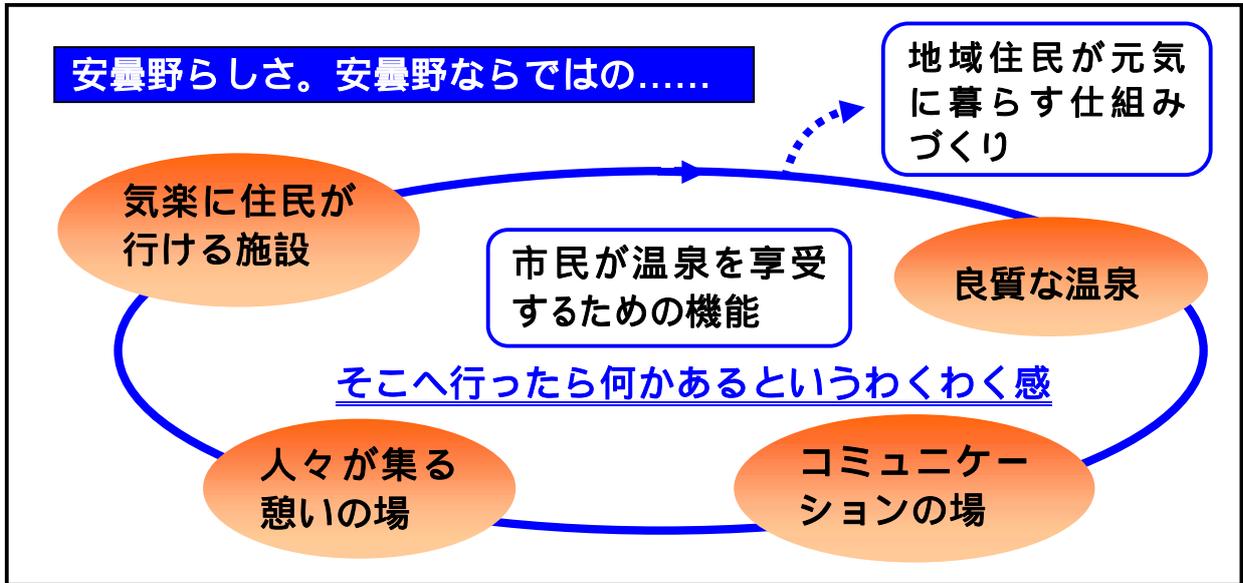
観光の現状は、地域の自然や歴史、文化を訪ねることや、体験活動などが好まれ、地域が元気になるとともに、テーマ別に絞り込んだ地域の企画が観光客に伝わる時代です。

しゃくなげ荘周辺には豊かな自然景観が広がり、ピフ穂高や天蚕センターの施設、歴史や文化、ウォーキングコース等その素材は豊富にあり、そこには、その素材を支え、提供できる地域住民がいます。地域が地域の良いものを再発見し、地域の良さを観光客により認められることで、地域住民が自らの地域に、より確かな誇りを感じることができるものと考えます。

箱物整備だけでは人は集まらない時代において、地域に根ざした「安曇野らしさ」「安曇野ならではの」の地域全体の仕組み、取組みにより、観光の拠点として大きな効果が期待できるものと考えます。

【参考資料】

市民が温泉を楽しむための機能



# 穂高温泉郷の基幹施設となるための条件

## 地域密着型

日本中どこを探してもない、安曇野に行かなければ「安曇野らしさ」「安曇野ならではの」施設。

- ・地元住民が生き生き活動できる施設。
- ・地元の野菜を使った活動により、その施設に集まる仕組みづくりをする。
- ・地域に密着した施設。箱物自体にこだわらず、空間スペースの有効活用。
- ・観光客向けに企画をするのではなく、まず市民が元気に暮らせるような仕組みづくりが必要。

- ・安曇野に行かなければ絶対ないもの。付加価値のある温泉施設。
- ・住民が、人が人として人らしく、生活できるような一つのアメニティー。役割を持たした地域主体の施設。
- ・地域の活性化のためには、飲食・売店・テナントの活用などで集客できる施設。
- ・観光を目当てにするべきではない。市民がそこで何をしたいかが大事。イベントを企画する時に集まり、夜遅く立ち寄れる風呂があり、会議ができ、企画の発着点となるホール等がある施設。

## ソフト面

- ・地域で楽しく活用されることが、情報として発信され、観光客の誘客に繋がる。
- ・シンプルな大浴場に観光客が来ることで、なつかしく都会を離れて楽しいという雰囲気させられる。
- ・個性を発揮し、訪れた人に素敵なイメージを与えられる施設で、ハード面も大事だがソフト面が重要。

## ハード面

- ・日本のどこにもない施設で住民も観光客も利用する施設。
- ・病院の併設。
- ・単なる健康的な入浴施設では不十分。
- ・心が癒される健康志向の施設。
- ・大きな浴場だけでなく様々な風呂(足湯・露天風呂、家族風呂。サウナ風呂)
- ・家族風呂は特に多く。
- ・障害者などにも配慮が必要。
- ・福利厚生・リハビリ施設と併せて健常者にも利用する施設。
- ・温浅重視、岩盤浴や家族風呂などの大小の風呂があり、楽しむ時間の情報発信地。空間スペース・景観も重要。
- ・リハビリなどにこだわらず、トレーニング施設の併用も考え、リフレッシュ・健康的なイメージの施設。
- ・ランドマーク的存在として穂高温泉郷の中心として活性化できる施設。
- ・貸切風呂、乳がんの人や高齢者にも配慮した、幅広い人たちが利用できる施設。
- ・バリアフリーという観点では、貸切風呂が1つか2つあり、すべての入浴施設が天然温泉であったほうが良くシンプルが大事。
- ・日帰り施設でも長時間滞在できるものを造り、風呂の形態はいくつあってもよい。

### 縦軸の説明

- \* **地域密着型**  
地域住民を優先した施設
- \* **観光重視型**  
広範囲の観光客を優先した施設

### 横軸の説明

- \* **ソフト面**  
施設の内容の充実
- \* **ハード面**  
施設整備の充実

## 観光重視型

## 穂高温泉郷の観光拠点となるために必要な整備

### ソフト面

- ・安曇野は観光的なイメージができています。その素晴らしい場所に磨きをかけ、住んでいる人たちが幸せに暮らしていることを観光客の目線から見直して見る必要があります。市民を中心に考えることで観光が伸びていく。豊かな素材・人・環境を大事にしている姿に自信を持つべきだと思う。
- ・地域の農産物を生かした料理のコンテストを実施するなど、地域の活性化を図る。
- ・地元の人々の企画（春のハイキング等）に観光客も参加できるよう企画し、市民が何をしたいか、どのように遊び、楽しむかが大切。
- ・住民がやっていることを繋げ、情報（菜の花まつり・ハイキングコース）として発信する力がとても大切。一つのストーリーとして相乗効果を狙う。
- ・安曇野は水、アートの文化的イメージが高い。素材はたくさんある。それらを連携して回るコースを探し、縦横無尽に繋がりを持つと安曇野がイメージアップする。
- ・車を持たない人たちにどう対応するかが重要で、ルートを開くことが大切。
- ・ウォーキングやサイクリングルートの提案等、安曇野は素材があるので、テーマに沿ったルートを提案することで、観光客が歩きやすくなり観光に繋がる。
- ・サイクリングの発着点としての魅力はあるが、レンタサイクルの新たな仕組みも必要。
- ・駅からタクシーでの移動等アクセス等も課題。
- ・宿泊施設が積極的に売り出していく姿勢が必要で、地域住民と一緒にした活用が望まれる。
- ・宿泊だけでは観光が成り立たない。住民が元気に楽しく活動することが前提で宿泊業が成り立つ。
- ・地域の振興を考えた場合に安曇野にとって観光は経済的に重要。基本的に市民が出发点だが、受け入れ体制を考えた時に地域全体で盛り上げていく必要があり、おもてなし・ホスピタリティーの問題がクローズアップされる。
- ・周辺整備の受け入れ体制を考えれば観光が大事。宿泊施設が積極的に売り出していく姿勢を。受け身の体制では、お客様に対して「おもてなし」ができない。
- ・旅館・ペンション組合が1年間穂高活性化塾で勉強してきた。具体的な結果は出ていないが、「おひさま」を覗いて訪れた観光客に安曇野の良さを知って帰ってもらえるような企画を考えている。おもてなしについてもレベルアップを図る。目的から観光を除くことは考えられない。
- ・しゃくなげ荘の建築と同時に周辺整備が必要。入浴施設があるだけでなく、周辺で滞在型の観光、長時間滞在できるように様々な素材と結び付けていくことが重要である。国営アルプスあづみの公園が南北にあり、この地域は中間で山麓線が重要な役割を果たしている。
- ・オリンピック道路を通りわさび農場へ行った大勢の観光客を山麓線へどう向かわせるかが課題。穂高温泉郷に宿泊施設がたくさんあるが、リピーター型滞在も考えていかなければいけない。

市民が元気に楽しく交流できる拠点。  
マーケティング、ホスピタリティーを追求し、  
安曇野を最先端の地域として価値観を高めていく。

### ハード面

- ・アクセス問題や自然環境問題等を慎重に。
- ・観光業界だけでなくすべての業界が一体となり、駐車場ほか周辺の整備を。
- ・サイクリングロードを整備し温泉施設に結び付ける。
- ・周辺全体を見渡し、今すぐ使える市の土地も含めて将来像を早急に検討すべき。
- ・山麓線は交通量が増加し、危険性が高い。観光客・住民もそぞろ歩きができない。観光客がのんびり歩ける施設の整備を。
- ・地元の菜の花まつり等区民対象の企画を観光協会、宿泊業者と今後一緒にできるか検討したい。富士尾山のトレッキングコース等様々な企画を個々で実施するだけでなく、横の繋がりを大切にすることにより、様々な整備ができる。
- ・山麓線沿いには看板がたくさん設置されている。美化についても考えていかなければいけない。
- ・将来的にはピフ穂高を道の駅にする。
- ・老朽化した天蚕センターをしゃくなげ荘周辺に移転する。

## 穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会設置要綱

### (趣旨)

第1条 この要綱は、穂高温泉郷の温泉資源、自然環境等を活用し、市民が交流し憩うとともに観光力を高める拠点整備について検討するため、穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会(以下「委員会」という。)を設置し、その組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

### (任務)

第2条 委員会は、安曇野市しゃくなげ荘に代わる新たな天然温泉を利用した施設及びその周辺環境を有効活用し、観光の拠点として整備するために必要な事項を調査検討し、市長に提言を行うものとする。

### (組織)

第3条 委員会は、委員15人以内で組織し、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 穂高地域審議会の委員
- (2) 公共的団体に属する者
- (3) 識見を有する者
- (4) 信州あづみ野穂高温泉郷旅館組合の代表者
- (5) 安曇野ペンション協議会の代表者
- (6) その他市長が必要と認めた者

### (委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

### (会議)

第5条 委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集し、委員長が議長となる。

- 2 委員長は、必要があるときは、会議に関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。

### (任期)

第6条 委員の任期は、委嘱の日から第2条に規定する任務が完了するまでとする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (庶務)

第7条 委員会の庶務は、商工観光部観光課において処理する。

### (その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

### 附 則

この告示は、平成22年12月15日から施行する。

## 穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会開催状況

開催日	検討委員会開催内容	備 考
平成 22 年 12 月 24 日	<b>第 1 回穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会</b> ・ 委嘱書交付 ・ 自己紹介 ・ 穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会設置 要綱及び役員の選出について ・ 安曇野市の観光の現状 協議事項 検討にあたっての方向性の確認 その他	
平成 23 年 1 月 19 日	<b>第 2 回穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会</b> 協議事項 前回意見の確認 宿泊施設あり方検討委員会の答申の検討 穂高温泉郷における現状分析と課題 温泉の活用について その他	
2 月 2 日	<b>第 3 回穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会</b> 協議事項 前回意見の確認 天然温泉を利用した日帰り入浴施設について 周辺施設と受入れ体制の充実について その他	
3 月 10 日	<b>第 4 回穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会</b> 協議事項 前回意見の確認 穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会の 意見集約について その他	
3 月 30 日	<b>第 5 回穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会</b> 協議事項 前回意見の確認 検討委員会の提言書について その他	
4 月 18 日	<b>提言書の提出</b>	

## 穂高温泉郷しゃくなげ荘周辺整備検討委員会 委員名簿

	区 分	氏 名	所 属 団 体
	穂高地域審議会の委員	腰原 基弘	穂高地域審議会（会長）
		川上 佐貴子	” （副会長）
	公共的団体に属する者	勝野 正道	穂高地域区長会（会長）
副委員長		北澤 貞雄	” （地元区長）
		塚田 明弘	穂高温泉供給（株）
	信州あづみ野穂高温泉郷旅館組合の代表者	衛藤 悦郎	信州あづみ野穂高温泉旅館組合
	安曇野ペンション協議会の代表者	土屋 雅則	安曇野ペンション協議会
	公共的団体に属する者	河村 佳次	企業組合 Vif 穂高
		辻谷 洋一	安曇野市商工会
委員長		宇留賀 元亮	安曇野市観光協会
	識見を有する者	佐藤 博康	松本大学 総合経営学部 観光ホスピタリティ学科
		臺 純子	長野大学環境ツーリズム学科 (鹿教湯温泉プロジェクト参加)